

NPO 法人 ビオトープネットワーク京都

# News Letter

事務局 〒607-8423 京都市山科区御陵山ノ谷34-1  
Tel 080-4974-1270 E-mail [biotopenetwork.kyoto@gmail.com](mailto:biotopenetwork.kyoto@gmail.com)  
ホームページ [biotopenetkyoto.g1.xrea.com](http://biotopenetkyoto.g1.xrea.com)

## 2021年度通常総会が終わりました

2020年5月28日(木)に通常総会が開催され、全ての議案に関して、ご承認頂きました。

今回新型コロナウイルスの影響により、みささぎの森の初夏の木漏れ日の下、野鳥の声を聞きながらの開催もなかなかいいものでした。屋外での少人数での開催でしたが、多くの方々にご理解をいただき、委任していただき有難うございました。今年度も引き続きご支援、ご協力お願い申し上げます。



2021年度前半は、新型コロナウイルスの緊急事態宣言の発令により、イベントや行事関連は相次いで中となり、活動も維持管理に留めていた。しかし、夏休みが明けたころから、学校等の野外活動の再開により、みささぎの森、川の生き物調査、白川の里山総合学習が再開、新規開催されコロナ禍の中一定の成果を残すことが出来ました。

NPO発足以前から19年活動してきました宇治白川の里山が、地主さんが茶園化するにあたり、活動を了することになりました。我々にとって、様々な面で成長させてくれました時間と場所で多くの出会いの場所でもあり、感極まるころがあります。長年に渡り、サポートいただき有難うございました。

みささぎの森では、新規事業として陵ヶ岡小学校の4年生を対象に自然環境保護や地域貢献を目的とした総合学習を開始し、次年度以降も続けて行くことを学校と確約しました。また、京都府からの新たな学生ボランティアの受け入れや観光会社とのコラボレーションの計画などが始まりました。

川の生き物調査では、コロナ禍で実施が危ぶまれましたが、一旦落ち着いた9~10月に鴨川、安祥寺川、鞍馬川と児童館や小学校と一緒に行いました。

まちなかオアシスの東山いきいき市民活動センターのビオトープと御池ビオトープでは、コロナ禍で制限があるなか、維持管理に努めました。期末の会員数は次の通りです。

	正会員	準会員	賛助会員	計
会員数	30人	26人	4人	60人

決算報告と今年度予算は下記の通りです。予算は補助金事業の縮小にともない、前期に比較して約22%減といたしました。今年度でもご支援のほど、よろしくお願い致します。

特定非営利法人ビオトープネットワーク京都 理事長 中辻英克

**2021年度予算案**  
2021年4月1日～2022年3月31日

特定非営利活動法人 ビオトープネットワーク京都

	2020年度決算額	予算額	備 考
<b>I. 収入の部</b>			
1. 会費収入	119,000	170,000	
入会金	0	8,000	2名×3000円、2名×1,000円
年会費	99,000	142,000	30名×3,000円、23名×2,000円
賛助会費	20,000	20,000	4口×5,000円
2. 事業収入	231,730	155,000	
まちなかオアシス事業	0	0	
白川里山事業	50,000	0	
みささぎの森事業	31,730	130,000	
鴨川生き物調査事業	140,000	10,000	イベント参加費
SDGs事業	0	5,000	参加費他
木津川右岸運動公園事業	0	0	
交流事業	10,000	0	
情報提供事業	0	10,000	
広告・宣伝事業	0	0	
3. 寄付金等	119,748	10,000	
運営寄付金、繰越金等	119,748	10,000	
使途指定寄付金	0	0	
4. 雑収入	1,001	1	
受取利息	1	1	銀行利子
その他収入	1,000	0	
5. 繰越金	265,038	401,740	
収入の部計	736,517	736,741	
	2020年度決算額	予算額	備 考
<b>II. 支出の部</b>			
1. 事業費	113,563	278,000	
まちなかオアシス事業	19,900	20,000	御池・東山一資材費、交通費
白川里山事業	23,692	100,000	撤去費用
みささぎの森事業	1,980	40,000	講師代、資材費、苗代
鴨川生き物調査事業	62,995	10,000	遊漁券、交通費
SDGs事業	0	20,000	活動費
木津川右岸運動公園事業	0	3,000	活動費
交流事業参加事業	0	15,000	イベント参加費(リモート含む)
情報提供事業	0	20,000	
広告・宣伝事業	0	50,000	パンフレット
経費	4,996	0	
2. 管理費	221,214	246,500	
事務局人件費	120,000	120,000	事務局人件費(パート賃金)、会計処理費、情報提供料等
通信費	43,196	45,000	電話料金、郵便代
旅費交通費	1,230	5,000	
会議費	0	1,000	お茶代
事務消耗品	6,950	20,000	パソコン備品、会計ソフト
備品消耗品	0	10,000	
保険代	25,307	30,000	スタッフ傷害・賠償保険料
諸会費	8,000	15,000	自然復元協会、日本生態系協会、自然環境保全京都府ネットワーク
支払い手数料	0	500	
減価償却費	16,531	0	
その他	0	0	租税公課、雑費
3. 予備費	0	212,241	
4. 短期借入金返済	0	0	
5. 納税引当金	0	0	
6. 繰越金	401,740	0	
支出の部計	736,517	736,741	

## 白川里山から撤退

宇治白川の里山活動を2021年9月末で終了します。里山のオーナーから、茶園事業を拡大するために、棚田1段目から5段目を返却してほしいと要請がありました。棚田5段目から上の雑木林の部分での活動は可能ですが、スタッフの高齢化などもあり、休耕田を整備して里山ビオトープとして新たな活動拠点作りをするマンパワーがないため、やむを得ず白川里山での活動を終了することになりました。

NPO 設立前の 2003 年 1 月に始まったこの事業は、約 18 年間いろいろな方のご支援で行って来ました。里山整備、各種団体との交流、菟道小学校の里山総合学習、日本自然保護協会（Nacks-J）からの里山モニタリング調査など稀少な生き物の保全などを通じてビオトープネットワーク京都を成長させていただきました。残り僅かですが、コロナで中断しておりました定例会も 3 月から 8 月まで撤去作業を中心にして開催を予定しております。長い間ご支援をいただきありがとうございました。

## 撤去作業 1

3 月 20 日（土）残り半年となった白川里山の活動に何年ぶりになる面々も含め、23 名が来てくれました。大人は、2、3 段目の防獣柵の撤去を行いました。みなさんのご協力のお陰

で順調に終わりました。

20 年間に亘り大

切に守り育ててきた里山ビオトープが一瞬にしてなくなり非常に残念で寂しい気持ちになりました。子供たちは、生き物を探したり、里山をかけめぐったり、焚き火で焼き芋や棒パンを焼いたりして、春の一日を楽しく過ごしていました。竹藪ではタケノコが顔を出し、フキノトウも見られ、いつもと変わりのない自然があり感慨深いものがありました。



## 撤去作業 2

5 月 15 日（土） スタッフ 7 名と一般参加の方 3 名が来ていただき 10 名の手で、倉庫内外の整理片付けなどを行いました。この倉庫は来月、みささぎの森へ移動をする予定です。倉庫を立てて 17 年くらいになります。色んなものが集まっていた。様々なイベントで使った道具類が残っていて、昔のことを思い出すと感慨深い気持ちになりました。倉庫の横のロッカーを掃除していたら、ジムグリ（無毒のヘビ）に 19 年の活動で二度目の出会いをしました。むろん 19 年前のジムグリでは無く、その子供か孫でしょう。隙間がほとんどないのに、どうやってはいったのかな？ ヤモリさんも一緒にいました。来月は、ジャガイモの収穫をしたあと、防獣柵の撤去、倉庫の解体などを行う予定です。ご協力いただける方よろしくお願いします。



## 撤去作業 3



6 月 20 日（日） 17 年間、我々の里山活動の拠点であった倉庫が無くなってしまいました。悲しい。でも、みささぎの森で復活します。順延になったにも関わらず、16 名の方々が来て下さり、ご協力いただき、有り難うございました。最後のジャガイモもしっかりと実っており、ジャガイモバターでいただきました。残す定例会は 7 月と 8 月の二回です。お天気になり、夏休みの思い出になることを願っています。



## 撤去作業 4

7月17日(土) 先月は、17年間我々の里山活動の拠点であった倉庫を撤去をして、みささぎの森へ移設をしました。梅雨明け間近の今日は、1段目防獣柵の撤去作業と白



川里山で栽培した最後のトウモロコシを収穫して皆で賞味しました。ご協力いただき、有り難うございました。朝方は曇っていたから作業がしやすかったが、午後は日照りも強くなり早めに切り上げました。防獣柵を全部撤去することができず少し残りました。参加していただいたのは大人11名と子供さん3でした。残りは明日、有志2、3名で撤去することにしました



## 菟道小学校4年生・最後の里山総合学習



2月15日 毎年1月末に実施をしていた冬の観察会はコロナ禍のために延び延びになっていましたが、本日なんとか実施できました。春の観察会はできず秋の里山学習から始めました。10月に白川里山で観察した生き物たちは、寒い冬をどのように過ごしているかを勉強しました。スタッフのおじさん・おばさん達は、たき火をつくって生徒達を迎えました。10人位の6班に分かれ、スタッフに導かれて休耕田や雑木林あるいは竹林に入って、ロゼットの野草や冬ごもりの昆虫、シカとイノシシの足跡やフン、そしてモグラ塚などに驚きの声を

上げて里山を歩きました。例年であれば、里山地図作りや焼き芋などもしていましたが、コロナの関係で無くなり、その分、里山探検の時間を多くしました。水田や池にはヤマアカガエルの卵とオタマジャクシ、枯れ木や椎茸のホダギの中からは、クワガタ、ゴガネムシ、ゴマダラカミキリ、そして畑や野原には春の花が咲き始めているなど、冬と春の里山を体験しました。

最後に記念撮影をして記念品をもらい、今年度の里山学習が終わりました。<白木弘一>

